北陸新幹線駅前に道の駅

福井・越前市、来月18日オープン

2024年春開業の北陸新幹線「越前たけふ駅」（福井県越前市）前に道の駅が3月18日にオープンする。越前たけふは在来線と接続しない単独駅として開業するため、他の駅以上に集客が課題だ。福井には関西や中部から車で訪れる人も多いことに着目し、「駅」の共演で地域ににぎわいをつくる。

2024年春開業の北陸新幹線越前たけふ駅前でオープン準備を進める道の駅「越前たけふ」（中央、福井県越前市）

越前たけふ駅は東京から新幹線で訪れた場合、福井駅（福井市）と新たに北陸新幹線の終着駅となる敦賀駅（福井県敦賀市）の間にできる。駅周辺には約100㌶の農地が広がり、在来線の武生駅とも3キロほど離れている。一から街づくりが必要な環境にある。

道の駅「越前たけふ」は駅前開発の起点になる。施設には車の利用者向けに休憩室やトイレを設けた施設（延べ床面積約360平方㍍）と、観光案内所や飲食・物販店舗が入る本館（同約1400平方㍍）の2館からなる。

延伸に備え にぎわい生む起点に

飲食・物販事業を運営するのが、越前海岸の市場などから直送される越前ガニをはじめとした魚介類の卸・小売りを手掛ける鮮魚丸松（福井市）だ。海鮮レストランのほか、刺し身やすしなどを販売する物販店も運営する。おろしそばや焼きサバずしといった地元の名産品を提供するテナントも入る。

道の駅のオープンは新幹線の福井県延伸に1年先んじる。新幹線の延伸自体が工事の遅延で1年延びたこともあるが、越前市としては先行して車で訪れる客を集めて、駅周辺を活性化しておきたいとの思惑もある。山田賢一市長は「道の結節点でもあり、道路網の整備も重要。（新幹線駅周辺を）人流・物流の結節点にしたい」と言う。

越前たけふ駅は北陸自動車道の武生インターチェンジ、北陸の一般道の軸である国道8号からそれぞれ600㍍ほどの場所に位置する。琵琶湖に沿うように北上する北陸自動車道で関西や中部から訪れ、越前市や福井県鯖江市などにある和紙や打刃物、漆器、眼鏡などの伝統・地場産業の買い物や施設見学を楽しむ人も多い。

中部とのアクセスは今後さらに改善する。越前市など福井県丹南地域と岐阜県の間は細い林道しかなかったが、23年中にトンネルが開通。26年春には同じく岐阜県につながる中部縦貫自動車道の福井県内区間も全線開通する。

車で訪れる関西や中部の客に加え、24年春には新幹線を利用して首都圏客が越前たけふ駅に来る。新幹線の乗降の前後に、食や伝統工芸など地域を象徴する品をそろえた道の駅で楽しむニーズがあるとみる。

新幹線駅近くに道の駅を設けるケースは、22年9月に開業した西九州新幹線の嬉野温泉駅（佐賀県嬉野市）近くにできた「うれしのまるく」など、全国に数例ある。特に新幹線開業に合わせてできる単独駅は集客力が未知数で、民間の商業施設や飲食店などが集まりづらい。自治体が関与する道の駅の併設は、こうした課題を解消する効果を期待できる。

道の駅越前たけふは3月18、19日に開業を記念して海産物の割安販売や伝統工芸の体験といったイベントを実施する。食とものづくりの街の魅力を生かした集客策を進め、新幹線開業後にさらに弾みをつけられるか。駅は造ったが客が来なくて悩む様々な地域のヒントになるかもしれない。

越前市の山田賢一市長

日本海の魚介類提供

山田賢一越前市長に道の駅の開業や越前たけふ駅周辺開発の今後について聞いた。

――越前たけふ駅前にできる道の駅の特徴は。

「相当レベルの高い『本物』がそろうと期待している。越前ガニなど日本海の魚介類が提供できる。越前おろしそばなど地元の食文化もある。伝統工芸も扱う。越前市に海はないが、越前海岸が駅前に来るようなわけだから」

「多目的広場でスポーツや音楽のイベントを開きたい。人が交流、宿泊、買い物する場所が集積することで、さらに楽しめる場所になる。道の駅がさらに機能する」

――駅前には100㌶の農地が広がります。

「急務なのが地域ブランディングと誘客だ。ものづくりが盛んで、域内で循環する地域が、外に開かれて人を呼び込み、経済を回すようマインドを変えないといけない。ブランドとプライドはセットだ。住民が誇りに思い、外に発信し多くの人に来てもらう」

多目的広場ではイベント

「成長していく街にしたい。新幹線開業で人やモノの流れが変わるなか、地域の潜在力をどう生かすか。企業の研究開発拠点、大学など人材育成、クリエーターが交流する場。時間軸は異なるが、一つひとつ集積していく」

（聞き手は佐藤栄基）

地域の「チカラ」スタートアップ

日本モビリティ（前橋市）

自動運転バス実験

「後付け」費用減

自動運転システムの開発を手掛ける日本モビリティ（前橋市）は、群馬大学発のスタートアップとして2020年に設立された。前橋市などの公道で自動運転バスを運行させる実証実験を進めている。既存の車両に「後付け」のシステムを搭載することで、あまり費用

1月16日から前橋市内で自動運転バスの実証実験を実施している

る。地方では運転手の人手年度に始まり、今回が5回目。きっかけは、市内

バなで従千NしNTSの職員だった小峰千紘氏が社長に就いた。従業員は約10人。これまで大分市や広島県福山市など全国各地の自治体・バス会社と組み、実験を

日本モビリティの強み
運行する地域や路線を限定し、開発を単純化して早期の実用化を可能に
道路側の改良など「街づくり」も含めた総合的なソリューションを提供
既存車両に「後付け」で搭載するシステムにより、低コストで導入可能に

し、会長に就任。CRA

道路にセンサーやカメラを埋め込み、歩行者の飛び出しに対応しやすくするなど「自動運転に適した街づくり」をセットで提案するのも特徴だ。

同社の技術は車両の更新が不要で、既存車両にソフトなどのシステムを「後付け」搭載することで導入可能だ。新型車両を購入すれば1台1億円といった費用がかかるというが「その10分の1以下で済み、財政的に厳しい自治体も導入しやすい」（小木津氏）という。

4月には改正道路交通法が施行され、特定の条件下で運転手を不要とす

輸入超過2233億円で最高

3県の昨年、輸出は43%増

大阪税関は27日、北陸3県における2022年の貿易概況をまとめ、2233億円の輸入超過となったと発表した。輸出・輸入総額ともに過去最高額となり、差額も過去最大となった。ロシアによるウクライナ侵攻で拍車のかかった化石燃料や原材料の価格高騰や、急激に加速した円安が貿易赤字を招いた。

輸入超過は5年連続で超過幅は前年比で1539億円増えた。輸出総額の1653億円で、総額の25%を占めた。ロシアから自動車メーカーが撤退した影響で、日本から

全と清潔を売る包装の
式会社 大樹（ダイキ）
富山県射水市布目沢201
TEL (0766)53-1331(代)

富山―高山の高速バス、4月再開

富山地方鉄道は27日、4月1日に高速バスの富山―高山（岐阜県）線の運行を再開すると発表した。訪日外国人に人気の路線だったが、新型コロナウイルス禍で運休していた。利用者の回復を見込み、約3年ぶりに走らせる。運賃は富山―高山間の片道が3700円（大人）と従来より13%ほど引き上げる。

新型コロナ禍で休止していた高速バスの運行を徐々に再開している（富山地鉄の車両）

富山―高山線は濃飛乗合自動車（岐阜県高山市）との共同運行で、世界遺産の合掌造りがある白川郷（同県白川村）にも停車する。もともと6往復設定されているが、4月1日時点では2往復で再開し、その後の需要次第で本数を増やしていく。

能登ヒバのバイオリンお披露目

石川県の能登ヒバ（別名アテ）を使ったバイオリンが金沢交響楽団のコンサートでお披露目された。木材卸のフルタニランバー（金沢市）が取り組む能登ヒバの楽器制作プロジェクトの一環で、山猫バイオリン工房（群馬県藤岡市）が手がけた。

能登ヒバのバイオリンを手にする金沢交響楽団の西野団長

金沢交響楽団の西野卓実団長は2022年夏ごろからこのバイオリンを試奏。満足できる音になったことから23年2月の定期演奏会でデビューさせた。西野さんは「音の立ち上がりが良く、音抜けもいい」と評価する。山猫バイオリン工房は受注生産で対応し、価格は税別75万円からを予定する。

能登ヒバの楽器プロジェクトではこれまでエレキギターやウクレレなどが誕生している。木を使う楽器は輸入材が多いが、資源不足で国産材にも注目が集まりつつあるという。

石川県税収入、初の2000億円台

石川県は27日、2022年度の県税収入が初めて2000億円台になる見通しとなったと発表した。同日発表の22年度3月補正予算案で県税収入を129億円増額補正し、補正後の累計は2051億円となる。製造業を中心とした堅調な企業業績や消費の持ち直しの動きなどを反映した。

これまで県税収入が最も多かったのが21年度の1967億円だったが、これを更新する。馳浩知事は「円安で輸出産業が収益をあげている。為替が石川県でも大きな影響を持つことを実感した」と話した。一方、物価高騰など厳しい状況もあり「地域経済の動向や雇用情勢を注視しながら必要な対策を講じたい」としている。

はWEBで！/
企業共済

今だからできること、すべきこと
実り多い研修で新たなステージへステップアップ
技術・知識・キャリアアップのための研修プログラム多数
くわしくはこちら 三条校 検索
中小企業大学校 三条校
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部
〒955-0025 新潟県三条市上野原570
TEL.0256-38-0770(代) FAX.0256-38-0777
2023年度 研修申込受付中